

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	政策 - 2	政策研究事業	☐ 法定受託事務				
所管課	政策部 企画課	評価者	企画課長 村上 彩				
一般	会計	款	10	項	5	目	25
総合計画上の位置付け	分野名	0-(2) 行財政運営	施策の方針名	0-(2) 行財政運営			

1 事業の目的

対象	市民等	意図	地方自治法の本旨に即し、地域における総合的かつ計画的な行政運営を図るため。
効果	基本構想に掲げた将来都市像「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」の実現		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 (事業終了予定年度: 年度) ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	FabCity推進、学生世代の起業機会創出	(企画総合計画事業に統合)	
予算額（千円）	3,335	0	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	3,335	0	0
当初人員配置数	2.3	0.0	0.0
人件費（千円）	16,057	0	0
事業実績	FabCity推進、学生世代の起業機会創出	(企画総合計画事業に統合)	
決算額（千円）	3,249		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	3,249	0	0
人員配置実績数	1.8	0.0	0.0
人件費（千円）	11,458	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	鎌倉サーキュラーアワード開催回数	件	1	⇒	1		
	実績につながる活動	慶應義塾大学大学とのCOI-NEXT（共創の場形成支援プログラム）で市民がより「循環社会」を実感できるイベントについて周知した。				0		
活2	指標名	学生起業家グランプリへの応募件数	件	未実施	↗	16		
	実績につながる活動	事業委託により学生起業家グランプリの企画運営・受賞者起業支援を行った。				480		
活3	指標名	Fab City推進にかかるワークショップの開催数	回	2	⇒	1		
	実績につながる活動	3Dプリンターやレーザカッターを活用したワークショップを開催した。				1,485		
活4	指標名	自治体シンクタンク交流会議の本市での開催	回	未実施	1	1		
	実績につながる活動	自治体シンクタンク交流会議を輪番により本市で開催した。				0		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・鎌倉サーキュラーアワードの開催について周知した結果、応募件数が、令和6年度（117件）に比べて令和7年度は増加した（235件）ため、循環社会への意識醸成の観点で一定の効果を期待し、引き続き取組を行う。 ・学生起業家グランプリを開催した結果、16件の応募があったが、効率と効果の観点から手法について見直し、令和8年度はサーキュラーアワードにU-18部門を創設し、代替の取組として実施予定である。 ・Fab City推進にかかる取組、自治体シンクタンク交流会議については、市としての活動を縮小・中止する。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
					実績			
成1	総合計画の指標達成率 【R8～企画総合計画事業に統合】	%	未実施	↗	45.3			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・令和7年度までを計画期間としていた第3次総合計画第4期基本計画の指標達成率は45.3%にとどまった。令和8年度を初年度とする鎌倉ミライ共創プラン2030については、横断的施策である地球温暖化に貢献する取組を進めることで、指標達成率の向上を図っていく。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・サーキュラーアワードを実施し市民参画の機会をもつことは、共創のパートナーである市民等の、循環社会や持続可能なまちづくりへの参画意識の向上を促すものであり、総合計画の指標達成率の向上に寄与するものと考えている。今後も、鎌倉ビジョン2034及び鎌倉ミライ共創プラン2030で目指す「個々の力・地域の力を発揮する共創社会の実現」に向け、効果を検証しながら取組を進めていく。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている ☒ 変わらない ☐ 減少している		
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市 ☐ 国・県 ☒ 民間事業者 ☐ なし		
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている ☐ 概ね出ている ☒ 出ていない		
	効率性	事業費削減余地	☒ ある ☐ なし		
		関連・類似事業との統合	☒ できる ☐ できない		
公平性	受益者負担	☐ 導入済 ☐ 導入予定 ☒ 導入できない			
方向性	評価実施年度の方向性		⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☐ 事業内容は現状通り ☐ ① 事業内容は現状通りとする ☐ 事業内容は見直し済 ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☒ 他事業と統合済 ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合			
		☐ 予算規模は現状維持 ☐ ④ 予算規模は現状維持とする ☐ 予算規模は拡大済 → ☐ ⑤ 予算規模は拡大する ☒ 予算規模を縮小済 ☐ ⑥ 予算規模は縮小する			
		予算規模の方向性			
今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果		具体的な内容
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
総評	令和7年度をもって政策創造課を廃止し、令和8年度からは企画課（企画総合計画事業）に統合した。令和8年度以降は、全庁的な調整機能を担う企画課が引き継ぐことで、当小事業に位置付けられていた取組が、今後、鎌倉ビジョン2034に定める将来目標等に資するものとなっているかを、全庁的な視点で検証しながら進めていく。				上位施策への寄与度 C

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	既に令和8年度から事業規模及び予算規模を縮小し、企画総合計画事業に統合済みであることから、他市の令和7年度実績との比較は行わない。								